

外国語科学習指導案

三原市立第三中学校 教諭 新開 定親

- 1 日 時 平成 23 年 3 月 16 日 (水)
- 2 学 年 第 2 学年
- 3 単元名 『New Horizon English Course 2』 東京書籍 Unit 3 E-pals in Asia

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、コンピュータの活用に関する題材である。具体的に、**Starting Out** においては、絵美のクラスでのコンピュータの使用目的の結果がグラフで示されている。**Dialog** においては、Eメール友達を探したい絵美と友人マイクとの対話になっている。そして **Reading for Communication** においては、ウェブページ上で、世界の友達が、日本語のマンガという言葉を用いて、その人気についての情報交換をしたり、それぞれの国のマンガについての情報提供をしたりしている。これらを通して、得られた情報や自分の考えを相手に伝えることができる単元となっている。そのため、本単元は「学習指導要領」の内容(1)言語活動、イ話すこと「(イ)自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。」を行うのに適している。

言語材料としては、to不定詞の副詞としての用法と名詞としての用法が取り扱われている。小学校外国語活動「英語ノート2」において、**want to**を用いて自分の行きたい国を表現する活動は行っているものの、to不定詞の意味や機能については初めて学ぶことになり、今後学習していく様々なto不定詞の基礎となる。これらを身に付けさせることによって、目的を表すことや目的語をより具体的に表すことができ、自分の考えなどを相手に伝えることができる単元となっている。

(2) 生徒観

本クラスの生徒の多くは、その時間に学習した内容について、十分な声の大きさと発表をしたり、人の意見を聞いたり、相手の顔を見ながらコミュニケーション活動をしたりするなど意欲的に授業に取り組む姿勢をもっている。また、与えられた語句や文を機械的に繰り返したり、置き換えたりして話すこともできている。しかし、学習したことを基に、英語を通じて積極的に自分の考えなどを伝え合うことが十分にはできていない。平成 22 年度広島県「基礎・基本」定着状況調査における、実技による調査(英語)の問い 2 “Mr./Ms. ○○, do you study English every day?” に関して、約 90%の生徒が Yes または No で答えることができていたが、もう 1 文付け加えて、自分の考えや事実などを英語で伝えることができた生徒は約 25%であった。

一方、言語材料の定着について定期テストの結果から、次の二つのことがいえる。①**be going to**を用いた未来表現の後の動詞を原形にする問題の正答率は80%を超えており、概ね**be going to**の意味や機能は理解できている。②未来のことを表現する文を書く問題の正答率は60%未満で、既習の動詞や動詞が入った連語の定着が十分ではない。これらのことから、本単元でto不定詞を取り扱うことについて、to不定詞の後に、動詞の原形を用いることには、特に困難を感じることはないと考えられるが、to不定詞を用いて表現する際には、既習の動詞の復習を取り入れる必要がある。

(3) 指導観

英語を通じて自分の考えなどを伝え合うため、ドリル→エクササイズ→コミュニケーション活動という一連の言語活動を段階的に行い、自分の考えを発表させる。具体的には、本単元の言語材料である to 不定詞の定着を図るために、ドリルの場面では、コミュニケーション活動で用いる一般動詞の口頭練習を行う。エクササイズの場面では、to 不定詞を用いた文の一般動詞の置き換えの口頭練習を行ったり、to 不定詞を含んだ会話文でのパターンプラクティスなどを行ったりする。コミュニケーション活動の場面では、自分の考えな

どを伝え合うコミュニケーションを生起させるために、インフォメーションギャップを取り入れたコミュニケーション活動を行う。その際、コミュニケーション活動を支える基盤としてのコミュニケーションへの意欲を引き出すために、生徒が身近に感じるとともに、興味関心のもてる場面をコミュニケーション活動に設定する。また、自分の考えを伝え合うために、自分の考えの表現例を示す。そして、発表の際、ワークシートにおいて、コミュニケーション活動で用いた表現例を活用した発表例を示す。

言語材料の定着を図るために、ドリルやエクササイズでの口頭練習において、よく使われる身近な動詞を活用させたり、ワークシートを用いた練習問題を行わせたりしていく。

5 単元の目標

○コミュニケーションへの関心・意欲・態度

言語活動において、学んだ表現を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。

○表現の能力

自分の考えや気持ち、事実を相手に正しく伝えることができる。

○理解の能力

書かれた内容の大切な部分を読み取ることができる。

○言語や文化についての知識・理解

to 不定詞の意味や機能の知識を身に付けている。

6 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
①to 不定詞など新しく学んだ表現を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	①正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて、音読できる。 ②to 不定詞を用いて、自分の考えや気持ち、事実を相手に正しく伝えることができる。	①書かれた内容を正しく読み取ったり、大切な部分を読み取ったりすることができる。	①to 不定詞の副詞としての用法や名詞としての用法の意味や機能の知識を身に付けている。

7 指導と評価の計画（全7時間 本時は7/7）

次	学 習 内 容	評 価					
		関	表	理	知	評価規準	評価方法
一	to 不定詞の副詞としての用法を中心とした文を用いて積極的に相手とコミュニケーションを図る。また、Starting Out の内容理解に取り組む。	◎	○			ア① イ②	活動の観察 活動の観察
二	want to を中心とした文を用いて積極的に相手とコミュニケーションを図り、事実を発表する。	○	◎			ア① イ②	活動の観察 活動の観察
	Dialog の内容理解や音読に取り組む。また、to 不定詞の練習問題に取り組む。			◎	○	ウ① エ①	ワークシート ワークシート
三	like to を中心とした文を用いて積極的に相手とコミュニケーションを図り、自分の考えを発表する。	○	◎			ア① イ②	活動の観察 活動の観察
	Reading for Communication (P24) の内容理解や音読に取り組む。また、to 不定詞の練習問題に取り組む。			◎	○	ウ① エ①	ワークシート ワークシート

四	Reading for Communication (P25) の内容理解に取り組む。また、単元全体の音読テストに取り組む。		◎			イ① ウ①	活動の観察 ワークシート
	ここまでに学習した to 不定詞を中心とした文を用いて、積極的に相手とコミュニケーションを図り、事実や自分の考えを発表する。【本時】	○	◎			ア① イ②	活動の観察 活動の観察

8 本時の展開

(1) 本時の目標

to 不定詞を用いて、積極的にペアワークをし、事実や自分の考えを正しく話すことができる。

(2) 本時の評価規準

○コミュニケーションへの関心・意欲・態度

ペアワークにおいて、to 不定詞を用いて、自分の考えなどを伝えようとしている。(ア①)

◎表現の能力

新しいALTの先生に、広島のおすすめの場所について、正しく話すことができる。(イ②)

(3) 準備物

フラッシュカード、写真、センテンスカード、ワークシート、コミュニケーション活動用拡大ワークシート（掲示用）

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「C」状況と判断した生徒への手立て	評価規準・評価方法
導 入	1 新出表現の練習 ・この単元で学習する単語や連語について口頭練習をする。	◇フラッシュカードを用いて、全体での練習や個人での練習などを取り入れ、意欲的に取り組ませる。	
	2 to 不定詞の確認 ・英語のスピーチを聞き、その内容について質問に答えながら内容をつかむ。	◇show & tell での英語のスピーチや生徒とのインターアクションを通して、内容を捉えさせ、to 不定詞の意味や機能の復習をする。	
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ターゲットの文：○I want to talk about National Bihoku Hills Park in Shobara city. ○Many people go there to play and relax. ○I like to relax there. </div>		
	3 本時の目標の確認	◇2で用いた to 不定詞の文をターゲットの文として黒板に貼り、それを意識させながら、目標を確認させる。	
本時の目標：広島のおすすめの場所を紹介できる。			

展 開	<p>4 既習表現の練習【ドリル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の動詞や目的語の口頭練習をする。 <p>5 to 不定詞を用いた文の練習【エクササイズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> “I like to～.”の文を用いて口頭練習をする。 <p>6 インフォメーションギャップを取り入れた活動【コミュニケーション活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の知っている場所について自分の考えなどを伝え合い、広島県の観光マップを完成する。 <p>例</p> <p>A : <u>What do you want to talk about?</u></p> <p>B : <u>Look at G.</u> <u>I want to talk about</u> <u>Miharashi Onsen in</u> <u>Mihara city.</u></p> <p>A : <u>Miharashi Onsen?</u></p> <p>B : <u>Yes.</u> <u>Many people go there to</u> <u>take a hot spring bath</u> <u>and</u> <u>eat fish.</u> <u>I like to</u> <u>take a hot spring bath.</u></p>	<p>◇フラッシュカードや絵を用いて、様々な動詞や目的語の定着を図る。</p> <p>◇ドリルで練習した表現を基に、“I like to～.”の文の定着を図る。</p> <p>◇意欲的に取り組ませるために、具体的な場面を明確に設定する。</p> <p>◇拡大したワークシートを用いて、活動のルールを正確に理解させ、教師がモデルを示す。</p> <p>◇この活動で扱う会話文を示し、その口頭練習をさせる。その際、自分の考えを伝える表現例を示す。</p> <p>◇ワークシートを配布し、相づちをうつ、聞き直すなどの表現を示し、活動の際の評価のポイントを示す。</p> <p>◆黒板にあるターゲットの文を見ながら、相手に尋ねられるよう援助をする。</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>ペアワークにおいて、to 不定詞を用いて、自分の考えなどを伝えようとしている。</p> <p><活動の観察></p> <p>【表現】</p> <p>新しいALTの先生に、広島のおすすめの場所について、正しく話すことができる。</p> <p><活動の観察></p>
	ま と め	<p>8 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時を振り返り、次の学習への見通しをもつ。 	<p>◇発表で良かった点などを具体的に紹介する。</p> <p>◇ワークシートを使って、自己評価をさせる。</p> <p>◇次時の予告と課題の確認を行う。</p>